

**医療法人済恵会 広報誌**  
**オアシス77号**広報誌オアシス 制作 広報委員会  
〒379-0116 群馬県安中市安中3532-5  
Tel (027) 382-3131 FAX (027) 382-6568

# 平成28年度の努力目標

平成28年度が始まりました。今年も安中准看護師学校、富岡看護専門学校へ入学するものなど多くの新生が誕生しました。その中で今年の特徴は准看護師を目指す学生の年齢差が大きいことです。社会人を経て看護師の道を目指す学生が多くなりました。今回は40歳台の学生も誕生しました。これは学生たちが高齢化社会を迎え、益々看護師の需要が増えるという見通しにたった職業選択と思えますが、それと同時に病院側も人生経験を経た落ち着きのある対応を期待しての採用ともいえるのです。人生80年時代、いや90年、100年時代を迎え30代、40代の再チャレンジは決して遅いと思われません。学生諸君の奮闘を期待するものです。さらに今年度は特定看護師資格の入学も決まりました。感染症をコントロールする専門ナースを目指して川合看護師が半年間の学生生活を開始します。ご主人はじめ家族を置いて東京へ単身赴任し資格取得を目指します。ご家族の協力を改めて感謝いたします。感染症は古くて新しい問題です。抗生物質が発見された時、人類は病原菌に勝ったと思いました

が病原菌は次々抵抗力を持った菌に変身し戦いは続いております。免疫力の低下した高齢者が増えるにつれ病院ではさらに注意が必要となっております。昨年は当法人でも老健めぐみでインフルエンザの集団発生を経験し2週間にわたりデイケアが中止となり利用者さんに大変ご迷惑をかけたことがありました。川合看護師の卒業後の活躍に大きな期待を持っております。

医学の進歩に連れ薬品、手術器械などの進歩は目を見張るものがあります。しかしこれらを適正に使用し患者さんに役立てるのは医師をはじめ看護師その他全ての医療職が知識の向上を目指さなければなりません。昨年は病院増床工事、老健めぐみの調理室、増床工事が完了いたしました。おかげさまで順調に滑り出しております。今年度も職員一同の更なるレベルアップを目指し努力してまいりますのでよろしくお願い致します。

**医療法人 済恵会**  
**理事長****須藤 英仁**



# 在宅強化型施設へ

## ～介護老人保健施設めぐみ 平成28年度の取り組み～

花の便りが北上する季節になりましたが、皆様如何お過ごしですか。

【介護老人保健施設めぐみ】で、4月1日より副施設長として働かせて頂いております「大澤」と申します。3月までの10年間は居宅介護支援事業所【こかげ】・【さくらんぼ】でケアマネージャーとして、【デイサービスさくら】では管理者としてお世話になっておりました。【老健めぐみ】で、今まで培ってきた事を活かし、1日も早くお役に立てるよう頑張りたいと思っております。

【老健めぐみ】は、昨年12月より増床し、一般棟60名、専門棟37名の利用者様の在宅生活への復帰の為の施設となっております。

介護老人保健施設は、利用者様の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活が過ごせるようチームで支援をします。そのため、各利用者様に応じた目標と支援計画を立て、必要な医療・看護・介護・リハビリテーションを提供します。在宅復帰施設として、個々の利用者様の状態・状況に応じて、多職種（医師・看護師・介護福祉士・理学療法士・栄養士・

ケアマネ・支援相談員等）からなるチームケアを行い、早期の在宅復帰に努めます。

【老健めぐみ】は平成26年9月より、在宅療養支援機能の施設です。そして、平成28年5月からは、在宅強化型の施設となります。これは、在宅復帰施設としてどうしても、利用者様を長期入所（最大3ヶ月間）後在宅へ復帰していただく取り組みを行う仕組みなのです。在宅復帰にあたっては、ご家族のご協力が必要です。そのためにはご家族への介護負担をできるだけ軽減できるように在宅生活支援として、短期入所（ショートステイ）の提供、通所リハビリの提供、退所日の調整、在宅のケアマネとの調整、他のサービス事業者と連携し総合的に支援し、ご家族の介護負担軽減に努めております。

今年度【老健めぐみ】の取り組みとして【在宅復帰】について『家族説明会』を開催する予定です。

【老健めぐみ】は、地域の皆様が幸せになること目指します。

今後も宜しくお願い致します。

副施設長 大澤勝子

# デイサービスさくら 管理者としての目標と展望



管理者 理学療法士 上原 卓也

4月1日よりデイサービスさくらで管理者と機能訓練指導員を兼務させていただき上原卓也です。弱冠26歳とまだまだ未熟者ですが、経験が足りない分は職員一同力を合わせて最良のサービスが提供できるようがんばっていきたいと思っております。ここではデイサービスさくらの特徴とこれからの目標について紹介させていただきます。

## ① 安中市では唯一理学療法士（2名）が機能訓練指導員として常勤でいる施設である！

マッサージ、筋力トレーニング、歩行練習などの身体機能面でのサポート、トイレや入浴動作、着替えなど自宅で必要な生活動作練習の実施。必要があれば自宅に訪問し、利用者・ご家族様の希望に添えるように対応しています。

## ② 中重度者（要介護3以上）、認知症のある方の受け入れ！

さくらでは上記の方の受け入れも強化しています。前年度は利用全体（要介護者）に対し中重度者30%以上、認知症20%以上の実績があります。また、特殊浴槽も配備しており専用の車いす使用し入浴していただくことも可能です。個人浴槽、大浴槽も配備がありますので、利用者個々の状態にあった入浴方法が選択できるのも魅力であります。

## ③ 病院との連携

須藤病院の関連施設であるため、急変時には即時対応が可能です。さくらでは常勤のベテラン看護師がおりますので安心してください。病院から退院したけどまだ自宅での生活が不安、一人でお風呂に入るのが心配、もっとしっかり歩けるようになりたいと思う方、デイサービスって言葉聞いたことあるけど実際はどんなところ？と思った方がいらっしゃいましたら、まずはお気軽にお電話ください。そしてぜひ体験・見学してみてください。百聞は一見に如かずです！



# デイサービスさくら 管理者としての目標と展望



管理者 理学療法士 上原 卓也

少し先の話しになりますが…

今から約10年後にやってくる「2025年問題」。近頃ニュースや新聞でもよく目にするワードですのでご存じの方も多いと思います。2025年問題とは団塊の世代が2025年頃までに後期高齢者(75歳以上)に達することにより介護・医療費等において社会保障費の急増が懸念される問題です。3人に1人が65歳以上の高齢者、5人に1人が75歳高齢者と超高齢化社会が待っており、医師不足から必要な医療を提供できない・孤独死・老老介護・介護疲れ・介護難民といった深刻な事態が待っています。これに対して国は「重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる」と方針を掲げています。つまり各市町村が中心となり住民や各種団体が参加し地域を支えていこうという考えです。

デイサービスの役割も重要で期待も高まります。今後増加が見込まれる認知症高齢者や重度の要介護者に対する対応力の向上、予備の意味を含めた社会参加促進や心身機能訓練による生活機能の向上といった観点からサービスの充実を図っていくことです。また、医療機関や他の介護サービス事業所、地域の住民活動とも連携し地域に密着したデイサービスにしていきたいと思えます。これからもデイサービスさくらをよろしくお願いします。